愛知県医療療育総合センター広報誌

そよ風通信

第12号
2025年2月発行

〒480-0392 愛知県春日井市神屋町713-8　TEL／0568-88-0811　FAX／0568-88-0839　https://www.pref.aichi.jp/addc/

第5回センターふれあいフェスティバルを開催しました!

9月29日(日)にセンターふれあいフェスティバルを開催しました。当日は、あいにくの雨天にもかかわらず、今年もたくさんの方にご来場いただき、会場はとてもにぎわい、活気や笑顔にあふれていました。

華やかなオープニングパレードで幕を開けたフェスティバルは、開会式まではなんとか天気ももってくれていたのですが、徐々に天候が悪化し、強い雨が降り始めてしまいました。雨の影響で、一部ステージ出演が中止になったり、出店を早めに終了することになったりなど、思わぬハプニングもありました。しかしながら、出店者や出演者をはじめ、多くのボランティアの皆さまのご協力のおかげで、なんとか無事に終えることができました。今年のテーマとして掲げた「つながろう　みんなの手と手」という言葉どおりに、雨天という不幸な状況の中でも、みんなで手を取り合って支え合い、協力する姿勢があったからこそ、最後までやり遂げることのできたフェスティバルだったと思います。

フェスティバルを通してできた地域とのつながりや関係を大切にし、これからも医療・療育、福祉の向上に貢献できるよう励んで参ります。

ご来場いただいた皆さま、そして、フェスティバルにご協力いただいたすべての皆さま、本当にありがとうございました。

Contents

第５回センターふれあいフェスティバル……1
チーム医療（DST）紹介……2
栄養管理部門の紹介……2
スマートホスピタル（コミュニケーション外来）の紹介…4
第53回もちつき大会、子育て講演会について……5
院内学級の紹介……6
Topics……7・8

嚥下サポートチーム：DSTです!

皆様、「DST」をご存知でしょうか。チーム医療の略称として多様な意味を持つキーワードですが、当院では「嚥下サポートチーム（Dysphagia Support Team）」を指します。当院のDSTは、医師、歯科医師、摂食嚥下障害看護認定看護師、栄養士、歯科衛生士、作業療法士、言語聴覚士、薬剤師と非常に多職種から構成された、国内でも類を見ないほど充実したチームです（図１）。

図１　DSTメンバー

活動コンセプトを「食想」とし、食を想う気持ちを大切に、どんな障害をお持ちの方でも楽しく、安全に食を楽しんでいただけるよう、一丸となって検討しています。日々の業務では、他診療科や他院から紹介された外来の患者さんや、様々な背景で入院した摂食の問題を抱える患者さんの診察や検査を行なっております。

図２　食べるコースの様子

また、教育活動として院内、院外向けの研修会をそれぞれ年間１回ずつ実施しており、院内ではDSTに所属する各職種が毎年持ち回りで講演を行い、職員への啓発を行っています。院外へは県内の関係施設職員向けに当センターが開催している「重症心身障害児者関係施設等支援者研修」の一環として、「食べるコース」という研修会を実施しています（図２）。各職種からの講義や、病棟の摂食場面の見学、病院食の試食、口腔ケアの体験、よろず相談など盛り沢山の内容で、開始後４年間で、医師、歯科医師、看護師、保健師、理学療法士、作業療法士、言語聴覚士、栄養士、教員、保育士、介護士、支援員、相談員、事務職と、各職種の方々に幅広い施設から参加していただきました。

人と人との交流が少しずつ戻ってきた中、この研修のもう一つの重大なテーマである「地域で顔の見える関係作りを行い、良質な支援の輪を拡大する」ことを実践できるよう、継続して充実した研修を行っていきたいと思っております。そして、今年度は新たにグループ外来を企画しました（図３）。「嚥下cafe」と題し、職種ごとにブースを用意して気軽に質問していただいたり、患者さん同士が交流できたりするオープンな場を目指して開催し、参加いただいた方からはご好評をいただきました。

今後も「食への想い」に常に真摯に向き合い、引き続き充実した活動を行っていけるよう努力して参ります。食事に困りごとのある方はぜひDSTへご相談ください。

図３　嚥下cafeの様子

栄養管理部門について紹介します☆彡

栄養管理部門の管理栄養士は４名で、運用部企画事業課（２階事務室）に私たちのデスクがあります。

給食の厨房は、リハビリセンター地下１階にあります。

給食業務はメーキュー株式会社に委託をしており、管理栄養士・栄養士４名、調理師５名、調理員等９名のスタッフで力を合わせて給食を作っています。

給食を作っている様子をYouTubeでのぞいてみてください。「ちゅうぼうたんけん」と検索！

中央病院の給食

当院の給食は「発達期摂食嚥下障害児（者）のための嚥下調整食分類2018」を参考に形態を展開しています。

食数は１回に130～170食程度で、食種には、普通食、成長期食、軟菜食、まとまりマッシュ食、まとまりペースト食、ペースト食、濃厚流動食、特別食、離乳食、ミルクなどがあります。

「まとまり食」や「ペースト食」などの嚥下調整食の割合が多いのが当院の特徴です。ペースト食は「ブリクサー（ミキサーとブレンダーの特徴を組み合わせた調理機器）」や、大容量を一度にミキサーにかけることのできる「カッターミキサー」を使用して、なめらかなペーストに加工しています。

ブリクサー

カッターミキサー

栄養指導（入院・外来）、栄養管理

入院及び外来患者さん・ご家族を対象に、食事療法や食事でお困りのことについて、管理栄養士が個別で相談を行っています。また、入院患者さんの栄養管理計画作成や、栄養サポートチーム（NST）、摂食嚥下サポートチーム（DST）に参加し、食事に関する提案を行っています。

胃ろう・栄養外来（個別・グループ）

摂食嚥下障害を持つ患者さんが経口摂取が難しくなったときに、経鼻胃管や胃ろう、腸ろうなどの経管栄養を選択することがあります。「胃ろう・栄養外来」では、胃ろう造設などに関する説明を行ったり、ペースト食などの情報を提供するとともに、栄養状態を評価し低栄養状態の患者さんのフォローをしています。

また、年２回程度グループ外来を行い、実習や情報交換をしています。

グループ外来の様子

七夕そうめん

すいかジュレ

コミュニケーション外来について

心理部門では、数年前から主に絵カードを使ってコミュニケーションの発達を促す外来支援を行っています。現在は、子どものこころ科を受診されている、社会性の発達がゆっくりでコミュニケーションに困っているお子さん（主に就学前）とそのご家族を対象としています。月２回のセッションに親子で通院していただき、お子さんの好きな物を使ってコミュニケーションの意欲を引き出したり、それぞれのお子さんに合わせたコミュニケーションの方法を教えたりしています。

このはネットの活用は２年程前から開始しました。当外来では、お子さんにとって実際の生活の中で役に立つコミュニケーションを目指して支援をしています。そのため、セッションでやったことをご家庭でも試していただき、その様子をこのはネットを通じてご家族からご報告いただいています。このはネットを活用することで、セッションの成果が生活場面で役立っているかどうかを事前に把握し、次のセッション計画に活かすことができます。写真や動画も送れるので、セッションだけでは見られないお子さんの姿を拝見して毎回ほっこりしつつ、セッションを進める上で欠かせない情報として重宝しています。

最近ではお子さんが通所されている地域の事業所さんにご登録いただけるケースも増え、セッションの取り組みやご家庭の様子を通所先の先生方に知っていただいたり、逆に通所先での様子をご報告いただけたりするようになりました。セッションやご家庭だけに留まらず、生活の様々な場面でコミュニケーションを取れるよう支援をしていく上で、通所先でのご理解やご協力がとても重要であることを日々の支援で実感しています。

セッションが進む中で、お子さんが自分の要求が人に伝わって嬉しそうにしている様子や、視線や表情・声などを人に向けて発することが増えてくるのを、ご家族や関係機関の方々と一緒に喜べるのが私たちにとっても大きなやりがいとなっています。

今後もお子さんが生活の様々な場面で、なるべく多くの「人に伝えていいことがあった！」という経験を積み重ねていけるよう、ご家族や関係機関の方々と協力して取り組んでいきたいです。

児童精神科心理臨床室　野口

第53回もちつき大会を開催しました

年末といえば、センターでは毎年恒例行事の「もちつき大会」を開催しています。今年も近喜商事株式会社からご寄付とご協力をいただき、53回目となるもちつき大会を開催しました！

生のもち米を蒸すところから、蒸し上がったもち米を杵と臼でつき、そしてつきあがったおもちの加工まで、すべてその場で職員の手作業で行っているんです！もちをつく際の杵の使い方にはコツがいるようで、近喜商事社員の皆さまにご指導いただきながら、もちつきを行いました。食中毒等の対策上、一般の方は会場の中に入れませんでしたが、ガラス越しにもちつきの様子をご覧いただきました。

つきたてのおもちは、ちぎって、あんこを入れて丸め、パックに詰めた後、外来患者さん等に配布しました。

「もちつき」という日本の伝統的な行事を今後も長く続けていけるとよいですね。

※保健所指導の下、感染症及び食中毒対策をおこなって開催しています。

『子どもの発達を支える講演会』を開催しました!

イオンモールNagoya Noritake Garden 3階イオンホールにおいて、『子どもの発達を支える講演会』を、第１回は令和６年11月16日㈯、第２回は令和６年12月８日㈰に開催しました。

愛知県医療療育総合センターの専門職２名が講師を務め、第１回は「食べること・飲み込むことが苦手なお子さんと大人の方の「お食事」について」と題し、脳性まひなど様々な理由で食べたり飲んだりすることが難しい方々が、少しでもラクで楽しく元気になることができるお食事や、摂食嚥下障害などの方々が無理なく食べられる食事の作り方を紹介しました。

第２回は「遺伝学から紐解く子どもの個性・発達支援のアプローチ」と題し、遺伝診療科では体質や発達に特性があるお子さんの診断をどのように行なっているか、子どもの体質や発達特性による子育てや療育への関わり方を紹介しました 。

第１回は70名程、第２回は90名程と大変多くの方にご参加いただき、質疑応答の時間や終了後もたくさんの質問をいただき、大変有意義な講演会になりました。

院内学級の紹介　～地域支援課～

地域支援課では、転校時の対応や相談など、よりよく学校生活を送ることができるよう努めています。また、授業の内容は、院内学級の先生方によって個別に応じた多様な学び方や楽しみ方ができるような工夫がなされています。今回、院内学級について一部紹介いたします。

ゆりのき学級

中央病院で入院又はこばと棟に入所する児童生徒の学習が、病院内の教室と各病室で行われています。地域支援課では、連絡会などで適宜情報共有などをしています。

「おんがく」の授業では、沖縄の曲にふれました。三線の音や響きを聞いて、感じて笑顔になる児童生徒がいました。曲調を感じて、歌うように声を出す姿も見られました。ベッドサイドでの授業では、児童生徒に合った様々な教材を用いて、先生と一緒に楽しく学ぶ姿が見られました。

先生より

子ども一人一人の実態に応じて、季節の変化に伴う自然事象や季節行事、学校行事など生活面や社会面での経験の拡大を図れるような学習活動を設定しています。

けやき学級

子どものこころ科に入院する児童生徒が入級しています。地域支援課では、先生や医療スタッフと話し合い、学習時間を調整しながら、無理のない学習に努めています。

５月の子どもの日にあわせて、シールを貼ったり、色を塗ったりした画用紙を丸めて「こいのぼり」を作りました。壁面に飾られたこいのぼりから自分の作った物を見つけると、嬉しそうにしていました。図工だけでなく、その他の教科でも季節のイベントにあったテーマで学習を進めています。

先生より

子どもたちに関わる人たちとの連携を大切にしながら、集団や個での学びを深めることができるよう心がけています。

＜特別支援学校（肢体不自由）へのアンケートについて＞

地域支援課では、愛知県重症心身障害児者療育ネットワーク会議より、特別支援を必要とするお子さんのリハビリテーションに関して、より良いサポートを目指すため、特別支援学校向けにアンケートを実施しました。今後に役立てられるよう、アンケートを元に議論をする予定です。

新任研究員の紹介

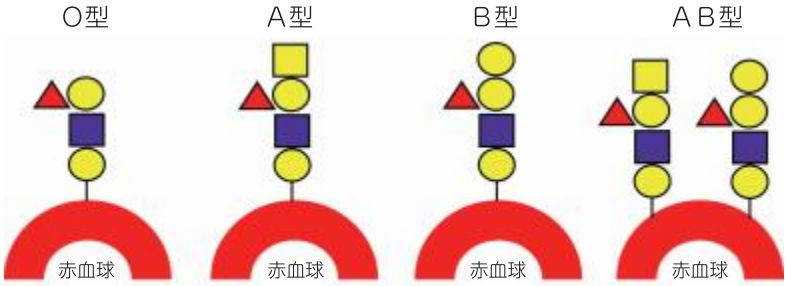
発達障害研究所　障害システム研究部門　部長　坂元　一真

2024年10月１日付けで発達障害研究所障害システム研究部門の部長を拝命いたしました坂元一真です。この場を借りてご挨拶申し上げます。

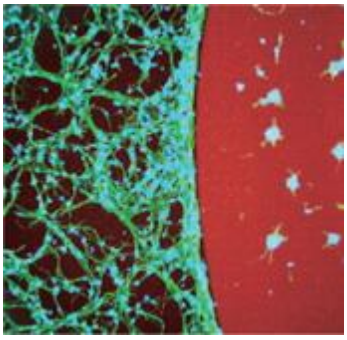
私は静岡県出身で、大学以降名古屋に住んでおります。大学院時代から、中枢神経軸索の再生阻害機構について研究してまいりました。脳や脊髄といった私たちの中枢神経系では、神経細胞は通常1本の長い軸索を伸ばし、他の神経細胞と電線を繋ぐようにして神経回路を形成しています。脊髄損傷が典型例ですが、外傷などでこの神経軸索が切断されるとこの神経軸索は二度と再生することができず、神経回路は断線したままとなってしまいます。この結果、脳梗塞や脊髄損傷などのあとには重篤な麻痺が残ってしまいます。もともと神経細胞は長い軸索を伸ばす力があったはずなのですが、脳梗塞や脊髄損傷などのあとでは「糖鎖」という分子の一つが神経軸索の再生を阻害してしまうのです。この「糖鎖」がどのようにして神経軸索の再生を阻害するのかを少しずつですが明らかにしてまいりました。

またこのような経緯から「糖鎖」そのものの研究も行っております。「糖鎖」はDNA・タンパク質に次ぐ「第３の生命鎖」と呼ばれ、大きな情報量を持っています。例えば私たちの血液型も糖鎖で決まっていますし、特定の病原菌への感染のしやすさも糖鎖で決まっています。この膨大な情報量を利用して、特に現在では、血液中の様々な「糖鎖」の量を測定し、特定の疾患の発見や診断、将来予測や治療薬選択などに役立つような糖鎖構造を見つけるとういう研究を展開しています。現在は認知症やサルコペニア、妊娠高血圧症といった成人の疾患を対象としておりますが、発達障害研究所への赴任を機に小児疾患へも拡大しようと関係の先生方と準備を進めているところです。

これまで、おもに成人疾患を対象とした研究をしてまいりましたが、私の知識や経験を小児患者や障害児者の医療と療育に生かせるような活動をしてまいりたいと考えております。どうぞよろしくお願いいたします。



血液型も糖鎖が決める



糖鎖（赤）が軸索（緑）の伸長を阻害している様子

はるひの家　― 外出レクリエーション ―

はるひの家では、施設生活を送る児童たちの余暇の充実やリフレッシュ等を目的として、毎月、外出レクリエーションを企画・実施しています。

行き先については、『こども会議』という児童主体の話し合いの場で児童たちの希望や意向を聴き取り、できる限り児童たちの希望に沿えるように設定しています。

施設生活・学校生活だけでなく、地域との関わりや社会に触れる機会を作ることで、児童たちが楽しみながら様々な経験を得られるよう努めています。

トランポリン体験の様子

鞍ヶ池公園で動物とふれあう様子

こばと2病棟　― 音楽会 ―

利用者の生活に潤いや楽しみが持てるような取り組みとして、音楽会を行いました。６月は「サックスアンサンブル演奏会」でディズニーの曲を演奏しました。８月は「新人さんと一緒に踊って暑さを吹き飛ばそうの会」でマツケンサンバの歌と踊りを披露しました。11月はボランティアによる「日本の伝承文化の獅子舞、篠笛・太鼓の演奏会」を行いました。

毎回、利用者にとって、良い刺激となり、心和む表情や笑顔がみられる時間になりました。今後もこのような取り組みを行っていきます。

「サックスアンサンブル演奏会」

「新人さんと一緒に踊って暑さを吹き飛ばそうの会」

「日本の伝承文化の獅子舞、篠笛・太鼓の演奏会」

写真の掲載については、ご本人あるいはご家族等の了解を得た上で掲載をしています。